

広報

ひがしの

199号
10月1日号

連載

保古の湖用水物語 誕生100年記念 第3話

＝写真＝

東野納涼夏祭りでは700発の花火が打ち上げられました。短い時間でしたが身近で打ち上げられる花火に魅入ってしまいました。

東野の人口 1641人 男:835人 女:806人 679世帯(R7.9.1現在)
4月1日との比較 総人口:+10人 男:+1人 女:+9人 +6世帯
令和7年4月1日～令和7年8月31日の東野の出生数 男:1人 女:1人 (恵那市全体 79名)

「東野納涼夏祭り」が開催されました

8月9日（土）に夏祭り実行委員会主催の「東野納涼夏祭り」が開催されました。猛暑が続く中での開催でしたが、お盆休みで帰省された方や東野地域以外からの参加も多く約900人の方に参加していただきました。

子ども横丁では、輪投げや射的、おもちゃの販売などが行われ親子連れで賑わいました。

●CS学園が大活躍!!

生徒と地域をつなぐ恵那東中学校発の地域ボランティアクラブは、中学3年生13人が地域の一員として初参加しました。割り箸でつぼうやルンコンマ、射的といった昔ながらの遊びを企画・運営し多くの子どもたちと交流を図りました。

※今年も花火を上げることができました。企業や団体、一般の方から100万円を超える協賛金をいただきました。酷暑を忘れ涼しい気分になりました。ご協力に感謝申し上げます。

CS学園の活動の様子



総合防災訓練を実施しました

8月31日（日）、恵那市総合防災訓練が実施され、東野地区では東野コミュニティセンターを会場に、振興会役員および自治会長が中心となり、避難所受付・設営訓練、地下式消火栓模擬放水、段ボールベッド等設置、AED操作訓練、LPガス発電機を利用した非常食調理、避難行動要支援者の安否確認および報告、支援物資受領などの各種訓練が実施されました。役員や自治会長は、避難所運営の手順や物資受け取り方法を確認し、万が一の際にも迅速で安全な対応ができるよう協力体制を強化しました。いつ起こるか分からない南海トラフ地震への備えとして、地域住民全体が防災意識を高め、避難所運営の重要性を再認識した訓練となりました。いざという時に慌てず行動できるよう、事前の準備と継続的な訓練が不可欠であることが改めて確認されています。今後より安全かつ円滑な避難所開設・運営を目指し、地域や関係機関と連携して防災体制の充実を図っていきます。地域の皆さま一人ひとりが防災への関心を持ち、自らの備えを整え、互いに協力し合うことで、「災害に強い・安心安全なまちひがしの」を目指してまいります。



「東野マスつかみ」が開催されました

7月26日（土）、青少年育成会議主催の「マスつかみ」が中日サンクリーン前の飯沼川で開催されました。酷暑が続く中でしたが、小学生以下の子どもたち55人が参加してくれました。最近では川で遊ぶ機会が殆どなくなりましたが、参加した子どもたちは慣れない川の中で、ヌルヌルしたマスに悪戦苦闘しながらも楽しそうに追いかけ回していました。

運営にあたって

は、小中学生のボランティアも含め協力いただいた皆様と日頃から飯沼川の環境整備をされている飯沼川を通じて郷土愛を育てる会の皆様に感謝申し上げます。



10/26 ふれあいスポーツフェスティバル開催案内

10月26日（日）、午前8時から東野小グラウンドにて東野ふれあいスポーツフェスティバルを開催します。昨年同様、子どもから大人まで幅広い世代の交流を図る企画となっており、参加しなくても見学だけでも歓迎します。ふれあいを通して地域の絆を深めるこのイベント。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



昨年度の様子：パンくい

東野ふれあいいきいきサロンの紹介

今回も東野で活動する「ふれあいいきいきサロン」を紹介します。恵那市社会福祉協議会東野支部ではサロン活動の広がりを推進しています。

サロンすずめ

東野下組生産森林組合北分室で活動されている「サロンすずめ」さんを訪問しました。

今回のサロンでは、参加者の皆さんとともに「しそ巻き」作りを行いました。当日は参加者の方々が自宅から持ち寄った大葉や味噌を活用しながら調理を行いました。完成後には、持ち寄った野菜や果物などを囲んで雑談を楽しみました。

参加された方からは、「それぞれが話したいことを話せる場です」とや「外に出て料理をしたり、雑談したりするだけでも楽しい時間になります」とサロンについてお話をされました。

これまでに「焼き肉のたれ」や「からすみ」作りにも取り組まれており、今年の冬には「花餅」作りを予定しているとのことでした。



さあ歌いましょう

東野コミュニティセンターで活動されている「さあ 歌いましょう」では、9月15日に開催予定の敬老会に向けて練習が行われました。「明日があるさ」や「ふるさと」など懐かしい名曲を指導の先生とともに、皆さんで楽しく歌われていました。

代表の方は、「このサロンは上手に歌うことを目的にしているわけではなく、みんなで楽しみながら歌うことを大切にしています」また「一人で家にこもりがちな方でも、ここに来ておしゃべりや歌を通じて楽しい時間を過ごしていただければと思うています」と話されました。



東野シニア会

東野コミュニティセンターを拠点に活動されている「東野シニア会」では、毎月第四金曜日の午前中に「ふれあい喫茶」を開催し、コーヒーとお菓子を200円で提供しています。毎回参加されるグループもあり、誰もが気軽に利用できます。

代表の方は、「もっと大勢の人に利用してもらって笑顔で会話が弾む喫茶になるといいね」と話されていました。

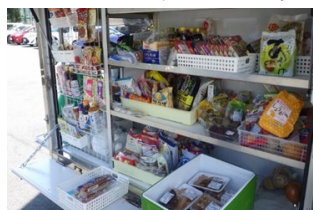


「移動スーパー」を初体験しました

8月1日ふれあい食事サービス事業の「アヤマ会」の終了後、移動スーパーが東野コミュニティセンターに来訪し、会員の皆さんが買い物を楽しみました。

参加者からは好評で、販売品目は幅広く揃えられており、会員の皆さんは会話にも花を咲かせながら、買い物の時間を楽しんでいました。

移動スーパーは高齢者や買い物に困難を抱える方にとつて、生活支援と地域のつながりといった両面で非常に強い存在です。



中学生、コミセンで夏休み学習

この春に東野小学校を卒業した中学1年生4人が、夏休みの間、コミュニティセンターロビーで自主学習に励みました。広々としたロビーは静かな学習スペースとなり、互いに教え合いながら宿題や復習に取り組む姿が見られました。地域の施設を活用して学ぶことで、勉強はもちろん、仲間との絆も深まったようです。

コミュニティセンターロビーは学習、交流の場としてだけでなくでも利用していただけますので活用ください。



保古の湖誕生一〇〇記念

保古の湖用水物語

第三話 水漏れ事件と人足不足

大正十年（一九二一年）二月に、ため池づくりの工事が始まりまし

た。毎日、毎日、東野村の人や阿木村から頼んだ人夫が、朝暗いうちに家を出ては、坂道をのぼって仕事にかかりました。

十一月には、水路の工事もうじき完了した。水路の長さは、三六〇〇メートルの予定です。



水漏れ事件

ため池の工事もうじき完了、堤も高くなつて、水が少しづつたまってきたときのことです。堤のせんから水路へ水を送り出すふせ石のあたりから、ちょび、ちょびと水がもれだしました。すぐに係のひとたちがどうしてか訳をしらべて、修理しました。

そして、専門家にしらべてもらったところこれぐらいは大丈夫といわれました。

しかし、この話を知った村の人たちは、「そんなことでは、かなわん。いつ、堤がぎれてやまつまみがおしよせてくるかわからん。こんな仕事はやめてもらわんと困る。」と言いつつ出しました。

ちょうどそのころ、まゆの値段がすこし高くなってきました。養蚕でもやっていけそうに思う人たちがたくさんありました。

反対する人たちは署名を始め、七十人が判を押していました。

役員の人たちは大変困ってしまいました。反対の人々が増えるにつれて、村から人夫がだんだんへっていききました。

人足不足

その上、大井の発電所の工事が始まり、こちらのほうがたくさんお金がもらえましたから、よけい人夫が大井のほうへ行くようになりました。人足不足で工事がなかなかなかどりませんでした。



次から次へといろいろあるな。

総会

保古の工事は、こんなふうでなかなかかどりません。大正十一年になり、耕地整理組合の総会がひらかれました。

この総会で、これから保古の工事を進めるかどうか決めることになりました。

反対の署名をした人々や土地をたくさん持っている人は「工事をやめよ」という意見でした。

小作地（かりて作っている田）の多い人々は、続けて工事をやってほしいという意見でした。

役員の人々は、「ため池は丈夫だ」と専門

家の意見を元に説明しました。

銀行が金を貸してくれたことも賛成派を後押しする良い材料でした。

総会では、最後に役員を信用するかどうかをみんなに聞くことになりました。

いろいろな意見が出されましたが結局、信用するという意見がたくさんだったので、工事を続けることになりました。

大正十三年（一九二四年）予定より堤防を厚くしてため池が完成しました。

文 三宅勝義

参考文献 ひがしの昔と今